

病棟看護師のワーク・ライフ・バランス
についての研究の動向と課題

0303





研究目的

- 病棟看護師のワーク・ライフ・バランスの実態とその課題について明らかにすること。

研究方法





- 研究デザイン：文献研究
- データ収集方法：医学中央雑誌Web(Ver.5)を用いて、2015年～2020年の過去5年間の文献を「ワークライフバランス」「病院」「看護師」に絞り込んで検索した。
- 分析方法：該当文献306件のうち、「ワーク・ライフ・バランスについて」と「ワーク・エンゲイジメントについて」に焦点を当てた(うち英語論文2件、入手困難な論文2件を除く)26件について、〈年次推移〉〈研究デザイン〉〈対象者の性別〉〈研究目的〉〈研究結果〉〈課題〉の視点から分析し、図式化した。



用語の定義

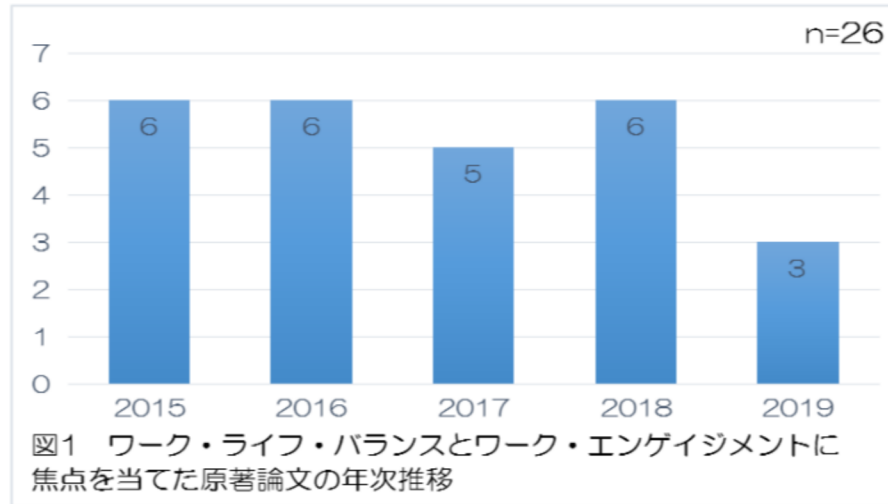
- 「ワーク・ライフ・バランス(WLB)」とは、「仕事と仕事以外の諸活動を自身が希望するバランスで、無理なく実現できる状態のこと」とする。
- 「ワーク・エンゲイジメント(WE)」とは、「仕事に関連するポジティブで充実した心理状態であり、活力、熱意、没頭によって特徴づけられる仕事に関するポジティブで充実した状態のこと」とする。

倫理的配慮

- 対象文献のデータを自己解釈することなく、研究者の意図を正確に読み取り、分析を行う。また、文献を使用する際には著作権の保護に努める。
- 
- 

結果1

● 年次推移(図1)

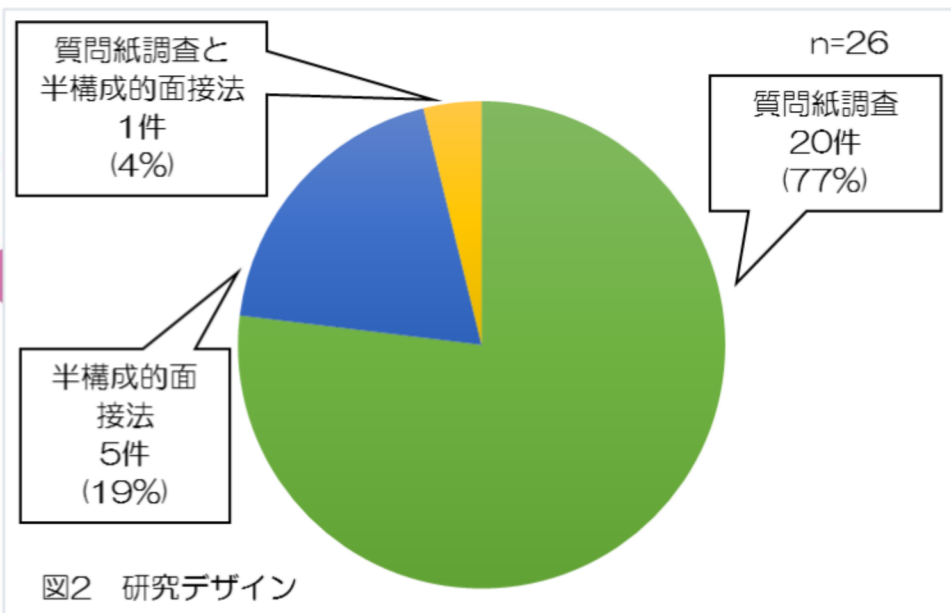


2019年は3件と他の年と比べると少ない

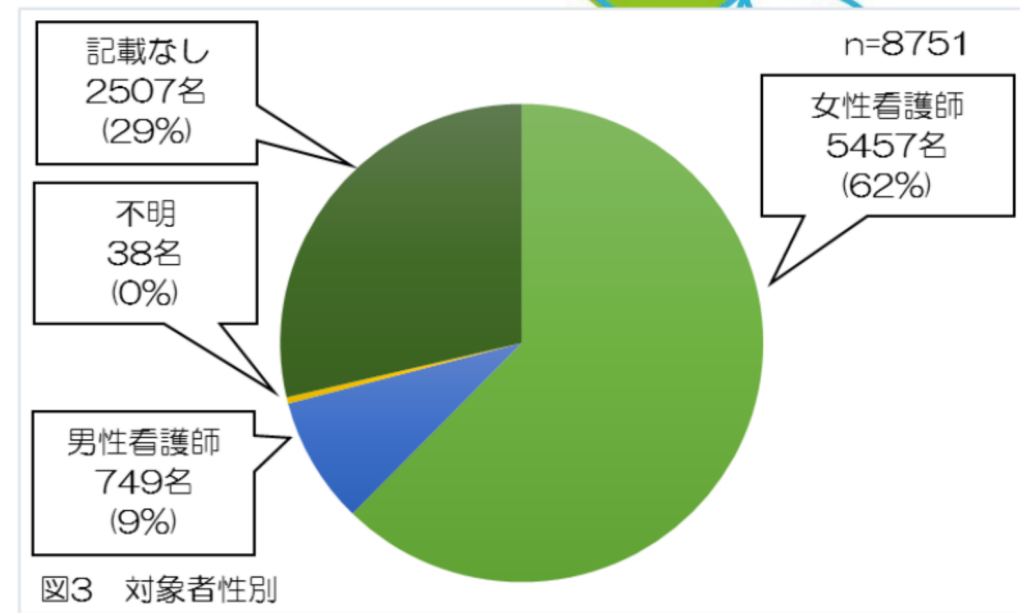
質問紙調査が約8割近く占めていた

女性看護師が6割以上占めていた

● 研究デザイン(図2)



● 対象者の性別(図3)



結果2

ワーク・ライフ・バランスに影響する要因は、【子育て支援】
【職場環境】【看護管理者、看護師の意識】【キャリア形成】
【ワーク・エンゲイジメント】【その他】の 카테고リーに分け
られた(図4)。

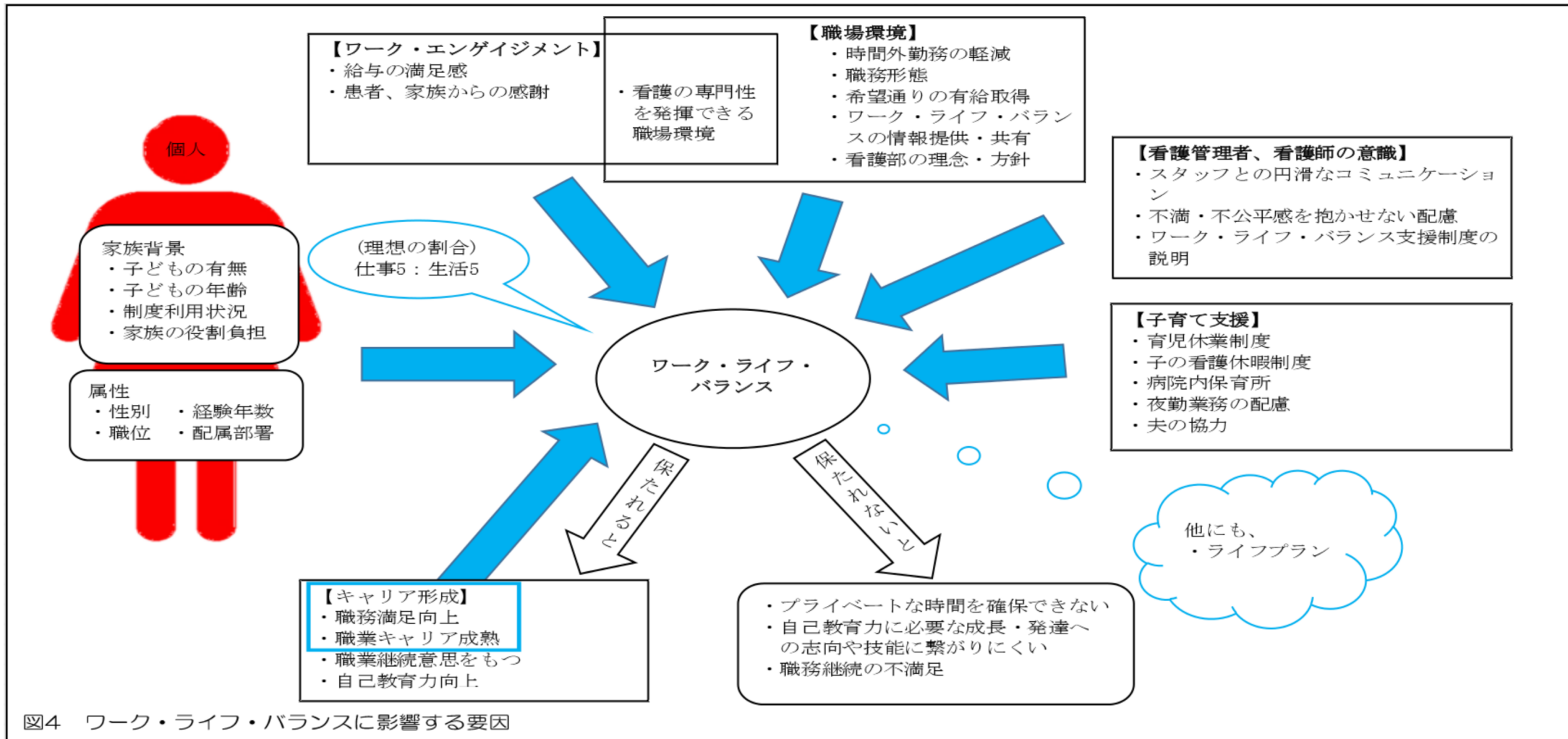


図4 ワーク・ライフ・バランスに影響する要因

結果3

- 仕事と子育てを両立するための子育て支援に関する実態では、「子育ての負担を軽減する制度」と「仕事の負担を軽減する制度」が抽出されたが、この2つの制度は分離していた(図5)。

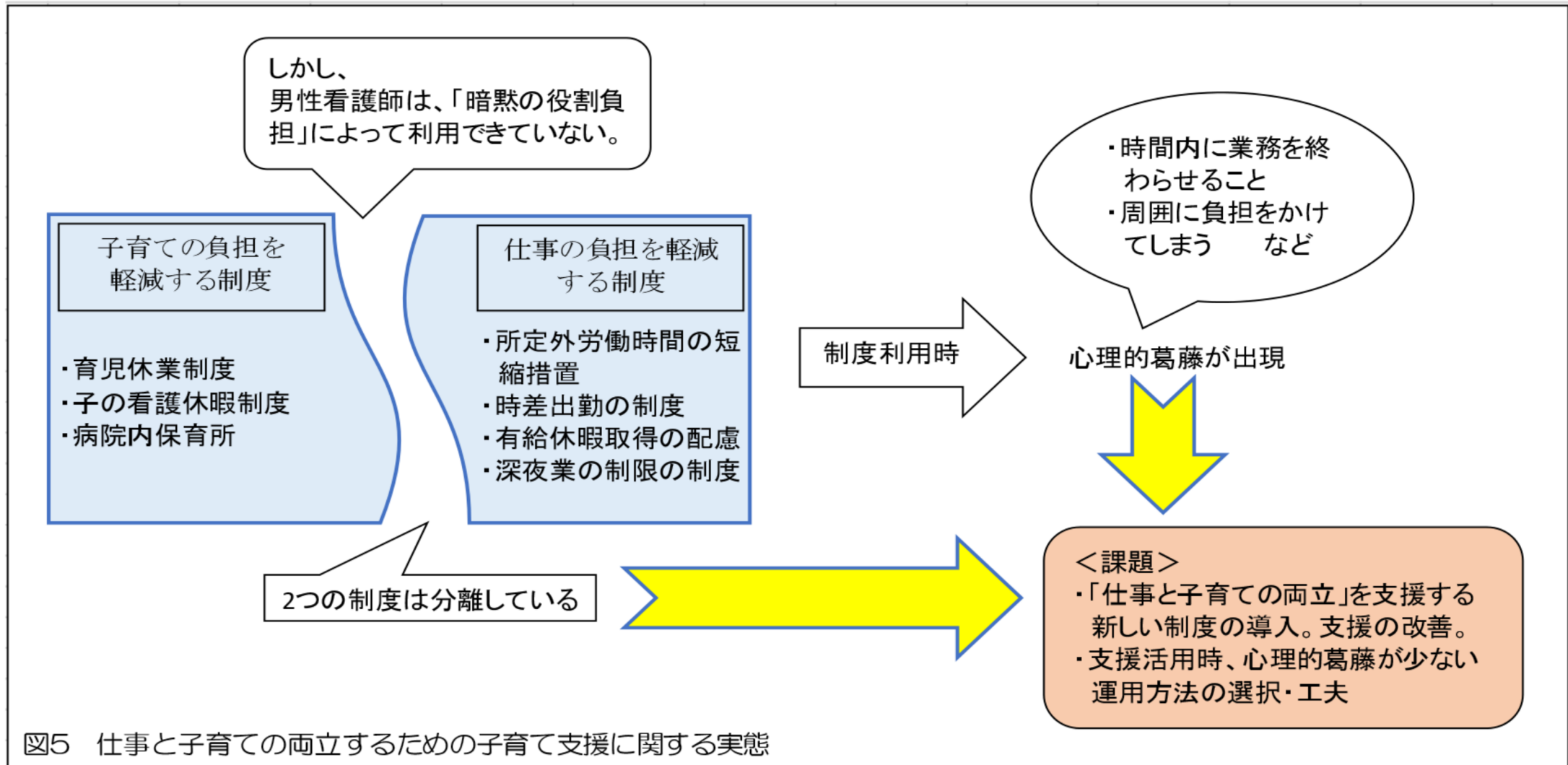


図5 仕事と子育ての両立するための子育て支援に関する実態

考察1

- ワーク・ライフ・バランスに影響する要因として、職場環境の整備やライフプランの確立などの課題が挙げられた(図6)。

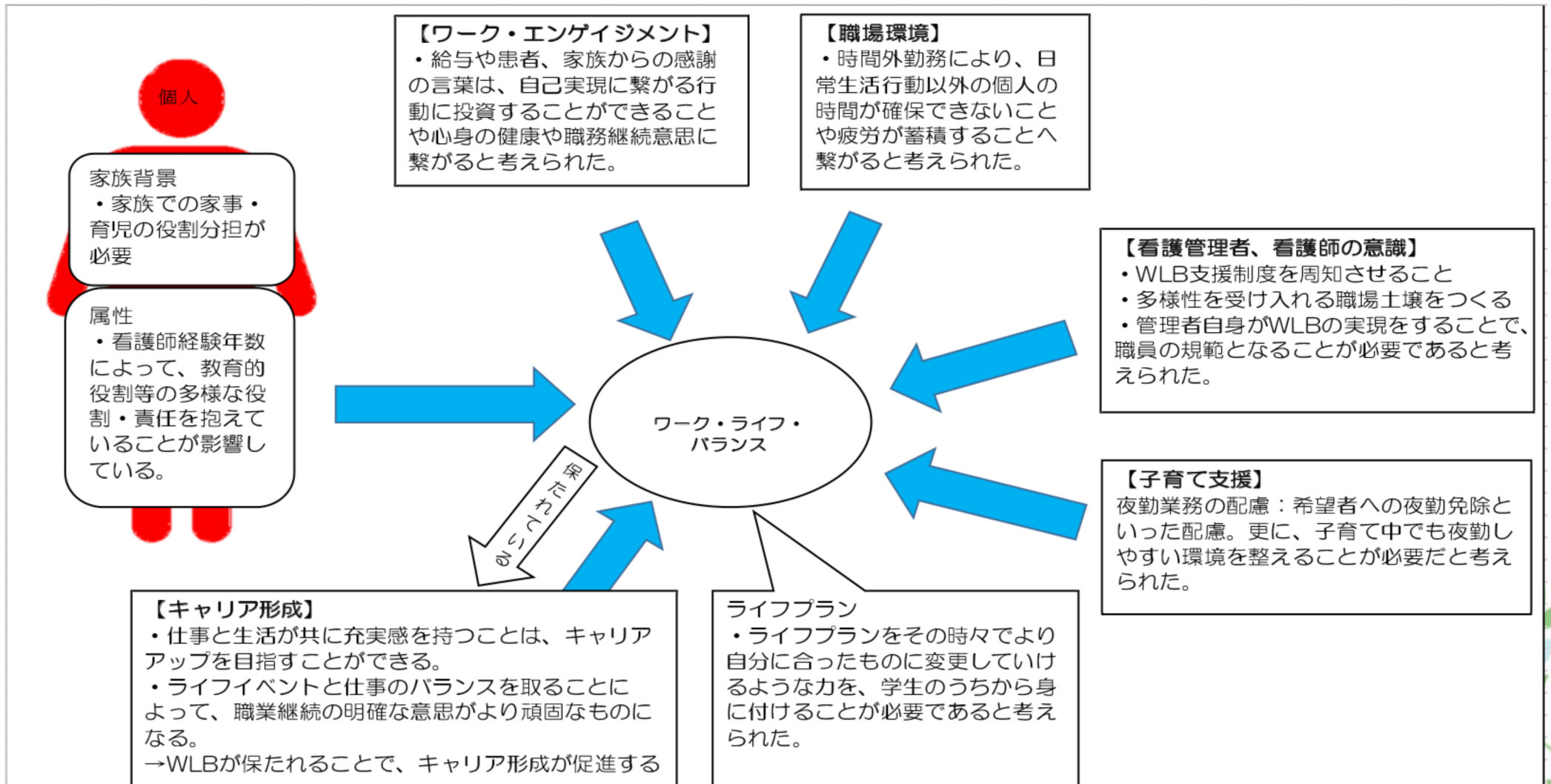


図6 ワーク・ライフ・バランスに影響する要因別の考察

考察2

看護師個人の努力だけではワーク・ライフ・バランスを保つことは困難であり、性別によってワーク・ライフ・バランスの認識と支援利用は異なると考えた。

仕事と子育てを両立するための 子育て支援に関する実態

「子育ての負担を軽減する制度」と「仕事の負担を軽減する制度」は分離している。

制度利用時に心理的葛藤が生じている。

現在の支援だけでは「仕事と子育ての両立」を行うことは困難であることがわかる。

男性看護師の場合

支援利用に至っていない
→WLBの認知度は低い
→支援利用の「前例がない」
→「暗黙の役割負担」が存在している

男性看護師のWLBの認識や支援利用についての認識や実態が、女性看護師とは異なっていると考えられた。

病棟看護師のワーク・ライフ・ バランスについて

複数人で協働する看護職にとって、病院や病棟等の【子育て支援】や【職場環境】が大きく影響していると考えられた。WLBは、さまざまな要因が影響しており、個人の努力だけではWLBを保つことは困難であると考えられる。

対処方法

- ・明確なライフプラン、キャリアプランを構築し、人生のその時々で自分に合ったものに変更していく必要がある
- ・さまざまな支援を利用しながらWLBを保っていく必要がある
- ・職場内で多様なWLBを理解し合いながら、互いに協力し合うことが重要である

結論

- WLBに影響する要因は、【子育て支援】 【職場環境】 【看護管理者、看護師の意識】 【キャリア形成】 【ワーク・エンゲイジメント】 【その他】の6つに分けられた。
- WLBに満足している看護師の関連要因として、「職場の社会的支援がある」「キャリアプランをもつ」「職場環境を調整する」「適切な業務量とする」ことなどが挙げられた。
- 仕事の負担を軽減する制度と、子育ての負担を軽減する制度の2種類が存在するが、これらの制度は分離しており、「仕事と子育ての両立」を支援するものが存在していなかった。

結論

男性看護師は、子育て支援に対する興味や必要性を感じていたが、女性が多数を占める職場では男性看護師に対する「**暗黙の役割負担**」が存在しており、支援利用の「**前例がない**」ことから、子育て支援利用に至らなかった。

- WLBは、複数人で協働する看護職にとって、病院や病棟等の【職場環境】や【子育て支援】が大きく影響していると考えられ、**個人の努力だけでWLBを保つことは困難**であると考えます。そのため、明確なライフプラン、キャリアプランを構築し、人生のその時々で自分に合ったものに変更していく力が重要となること、さまざまな支援を利用しながらWLBを保っていくことが必要である。また、職場内で多様なWLBを理解し合いながら、互いに協力し合うことが重要であると考えられた。